

令和３年度魅力ある学校づくり推進事業におけるアンケート
(県立高校・中等教育学校教員対象)

1 調査の目的

県立高等学校及び中等教育学校を取り巻く教育環境が大きく変化する中で、県立学校振興計画の策定や県立高校等の魅力化推進の参考とするため、県立高校及び中等教育学校教員を対象とした本アンケートを実施した。

2 実施時期

令和３年10月18日（月）～10月27日（水）

3 調査の対象

県立高等学校、中等教育学校の教諭及び常勤講師 2,028人

4 調査方法

調査対象者が、Googleフォームのアンケートにアクセスし回答

5 回答数、回答率

回答数 1,721人 回答率 84.9%

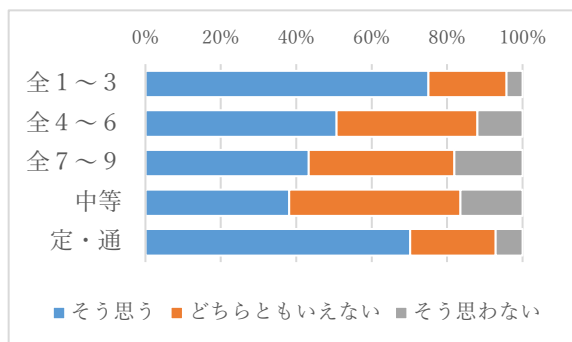
6 集計方法

回答者の勤務校により、「全日制１学年１～３学級」「全日制１学年４～６学級」「全日制１学年７～９学級」「中等教育学校」「定時制・通信制」に分類して集計している。

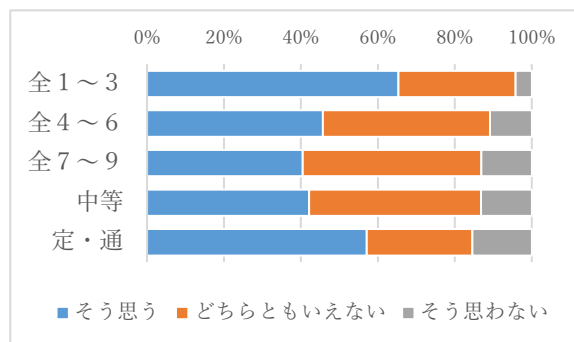
アンケート結果（県立高校・中等教育学校教員対象）

質問１：現在、担当している授業の現状について、どのように感じていますか。

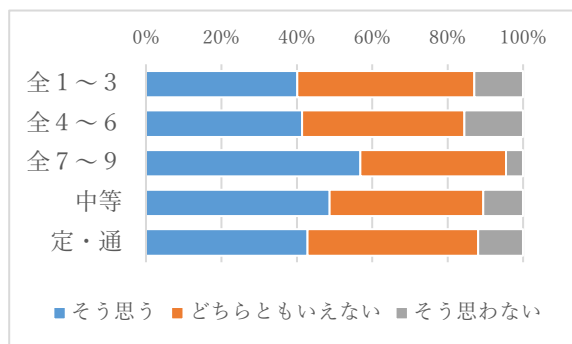
(1) 個別指導を行いやすい。



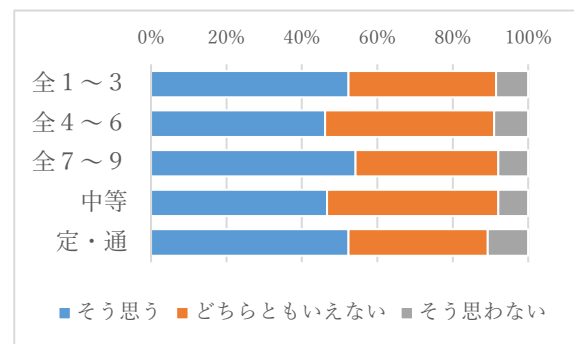
(2) 生徒一人一人の発言・発表等の機会が多い。



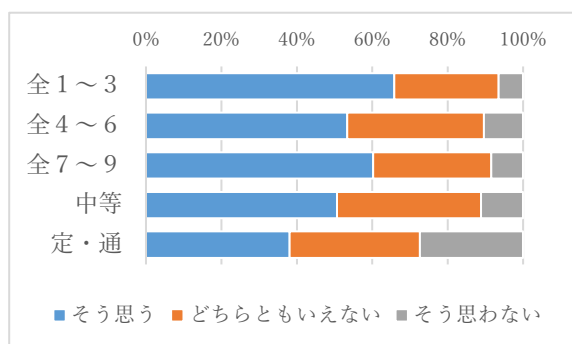
(3) 生徒が緊張感を持って授業に集中できる。



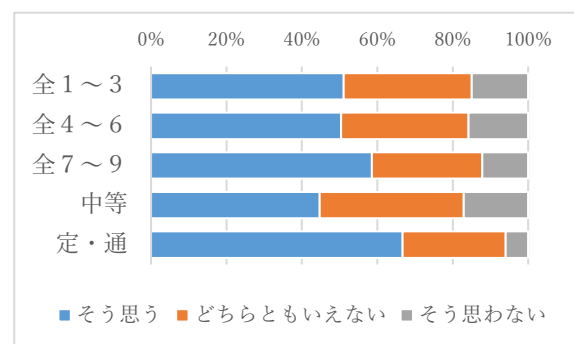
(4) 生徒が多様な考え方に触れる機会が多い。



(5) グループに分かれての言語活動や、体験活動を実施しやすい。

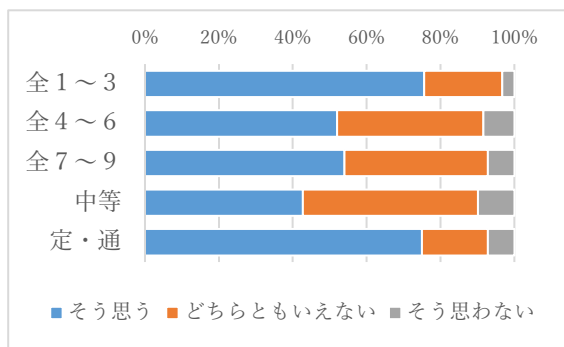


(6) 担当する科目数が適切で、教材研究等に取り組みやすい。

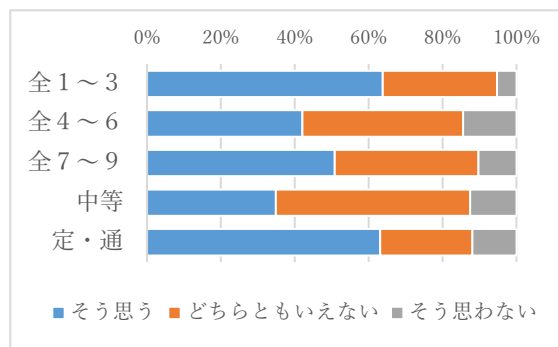


質問2：勤務校の学校行事の現状について、どのように感じていますか。

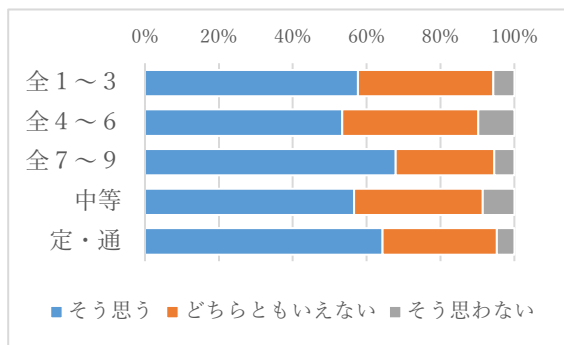
(1) 生徒一人一人に活躍の場がある。



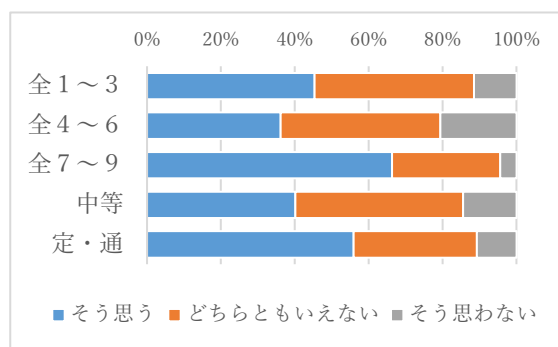
(2) 生徒のアイデア等を取り入れやすい。



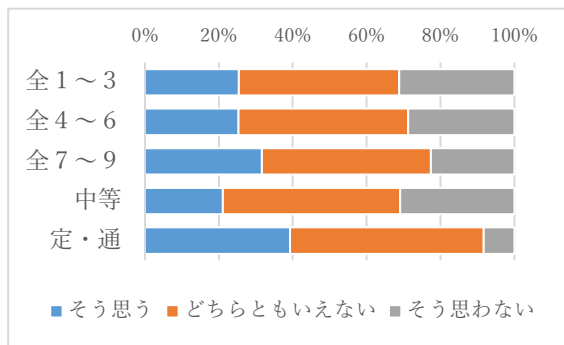
(3) 活気ある行事が実施できている。



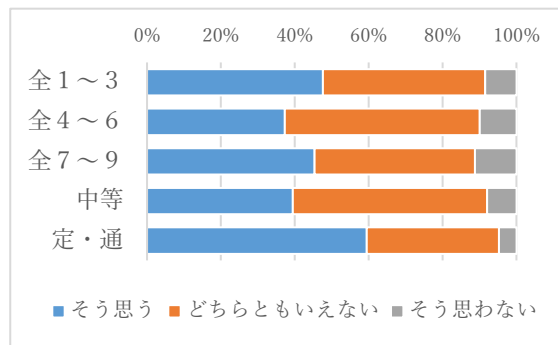
(4) 生徒らはお互いによく協力できていて、トラブルも少ない。



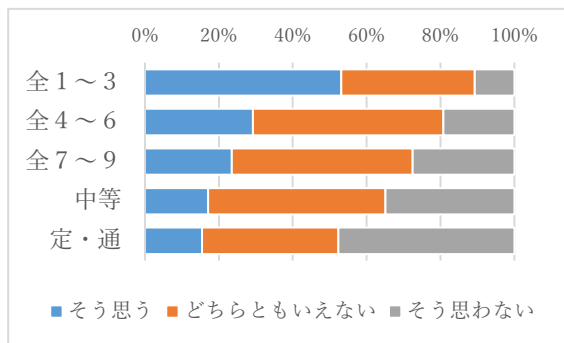
(5) 準備や実施において生徒・教員の負担は適切である。



(6) 行事を通して、生徒と教職員の一体感が高まっている。

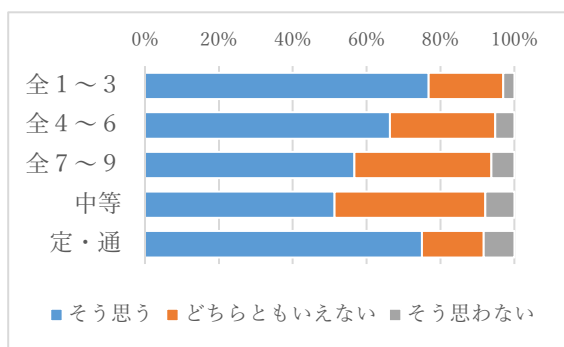


(7) 地域の小中学校等、校外団体と連携した企画を実施しやすい。

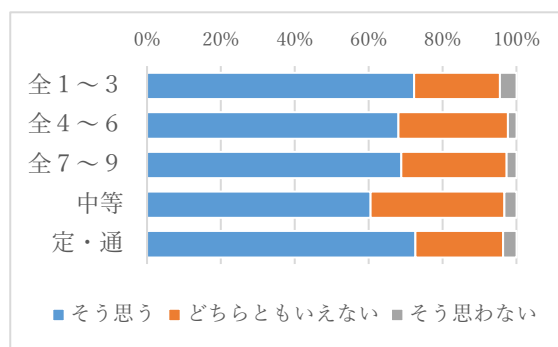


質問3：勤務校の部活動の現状について、どのように感じていますか。

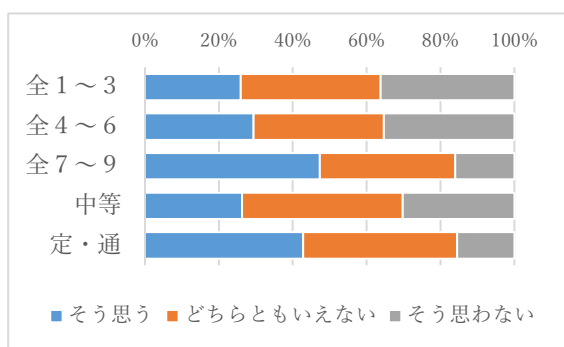
(1) 個別指導を行いやすい。



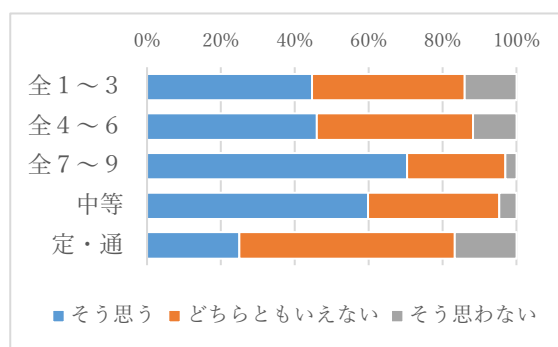
(2) 生徒一人一人に活躍の場がある。



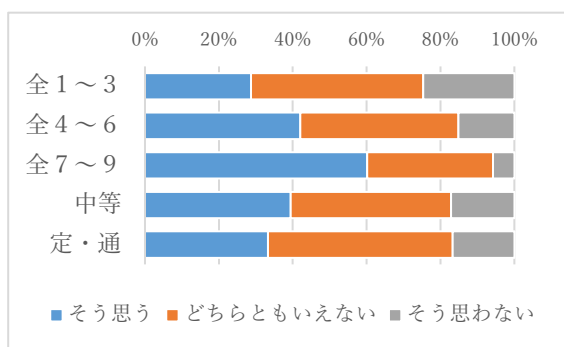
(3) 部員数は適切である。



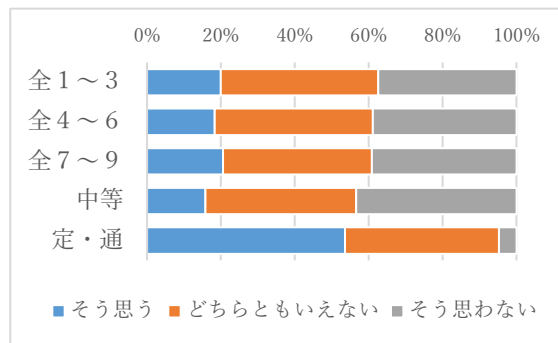
(4) 活気ある活動ができている。



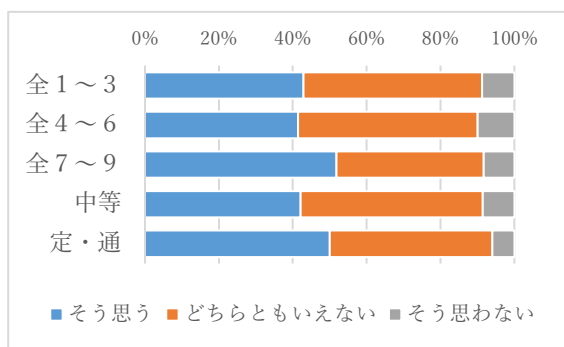
(5) 部活動の種類は、生徒のニーズに十分対応できている。



(6) 運営において、教員の負担は適切である。

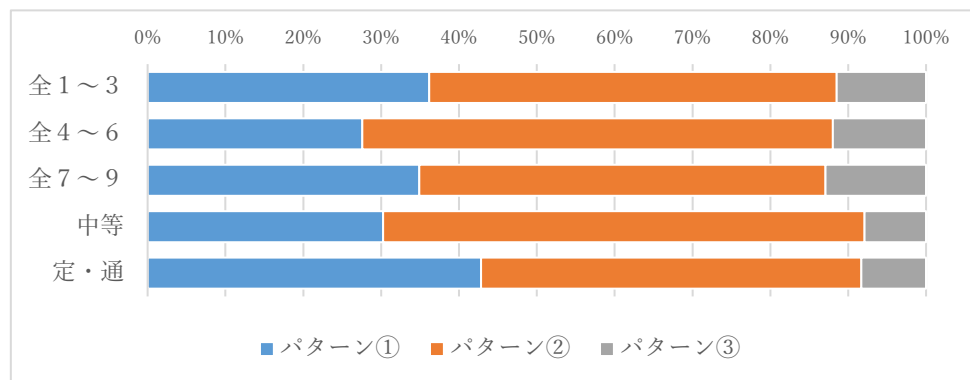


(7) 生徒が目標とするレベルに見合った活動ができている。



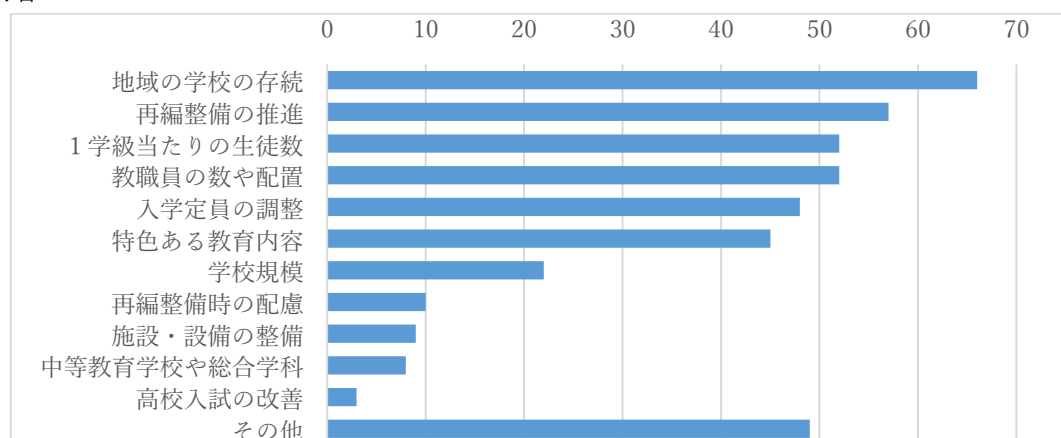
質問4：今後の再編整備の在り方について、学校規模の視点のみから考えるとき、パターン①～③の中から、ご自身の考えに最も近いものを、1つ選んでください。

(パターン①) 地区内の各学校の規模を小さくして、全ての学校を維持するべき。
(パターン②) 地区内の学校を統合して、中・大規模校と小規模校の両方を設置するべき。
(パターン③) 地区内の学校を統合して、できるだけ規模の大きい学校を設置するべき。



質問5：今後の県立学校の再編整備について、ご意見等がありましたら、記述してください。

意見の内容



【多くみられた意見】()内は同内容の意見の数

地域の学校の存続(66)

- ・地方創生、県全体の活性化のためにも、地域の小規模校は必要(27)
- ・教育機会確保、通学距離・時間・通学費等のことを考え、地域に学校を残すべき(14)
- ・小規模校は、地域に根差した教育、個別指導で、教育効果が高い(9)
- ・歴史ある母校・地域への愛情は大切であり、学校をなくす議論は慎重にすべき(5) 等

再編整備の推進(57)

- ・社会性を育て、切磋琢磨する、活気ある学校教育のためには、ある程度の規模は必要(16)
- ・小規模校は教員の負担が大きいので、負担減のためにも、統廃合を進めていくべき(10)
- ・他県に比べて再編計画が遅れており、早急に進める必要がある(10)
- ・生徒数が激減するのだから、統廃合はやむを得ない(5) 等

1学級当たりの生徒数(52)

- ・教育の質の向上、個別指導の充実等のため、1学級当たりの定員を減らすべき(30)
- ・1学級当たりの定員を減らして、学校数や学級数を維持すべき(7)
- ・特に南予地区では生徒の減少が激しいため、30～35人学級を検討してほしい(3)
- ・教員の負担軽減のため、1学級当たりの定員を減らすべき(3) 等

教職員の数や配置(52)

- ・学級減になったり、学校が統合したりしたとしても、教職員数の維持を(21)
- ・学級減や統合等の有無に関わらず、人手不足であり、教職員数の増加を(18)
- ・小規模校には多様な生徒がおり、個別対応が必要なので、教職員数の増加を(5) 等

入学定員の調整(48)

- ・大規模の進学校の定員を減らして、周辺地域の学校の衰退を防ぐべき(18)
- ・定員割れを起こさないように定員を設定し、適正な競争が起こるようにしてほしい(10)
- ・定員割れの学校だけでなく、大規模校の定員を減らすなど、地域でバランスよく調整を(7)
- ・偏差値上位校において、定員を減らして入試に緊張感を出すなど、学力を保つ工夫を(5) 等

特色ある教育内容(45)

- ・それぞれの学校の特色や進路目標を明確にし、地域や小中学校に発信することが大事(11)
- ・専門高校は地元の活性化（労働人口の確保）に必要なので、統合・廃止は避けてほしい(10)
- ・新しい学校（昼間定時制、職業学科を集約した高校等）や、学科の設置も検討すべき(6)
- ・地域の特色や生徒の実態に応じた学科の見直しが必要(5)
- ・他にない特色のある学校は残すべき(4) 等

学校規模(22)

- ・ある程度の規模がないと、学校運営が大変(6)
- ・学校規模として、1学年4学級は維持する方が、学校運営上は適切(5)
- ・生徒の多様性を踏まえて、大規模校、中規模校、小規模校のバランスは大事(4)
- ・ある程度の規模の学校で、生徒に多様な価値観や社会性を身に付けさせるべき(3) 等

再編整備時の配慮(10)

- ・登下校にかかる費用等の補助、交通手段の確保、寮の整備等が必要(7)
- ・遠隔授業の充実が重要(2) 等

施設・設備の整備(9)

- ・再編整備を契機に、校舎や設備を充実させてほしい(4)
- ・学校を統合する場合は、既存の校地と異なる場所に校舎を新築するのがよい(3) 等

中等教育学校や総合学科(8)

- ・特に南予は生徒の減少が激しいため、中等教育学校の在り方を検討してほしい(5)
- ・中等教育学校や総合学科の在り方を見直すべき(2) 等

高校入試の改善(3)

- ・県立学校の併願や、推薦入試の在り方を変えるなど、入試の工夫を(2) 等

その他(49)

- ・教員の負担軽減（通勤負担も含め）を考慮した再編整備にしてほしい(8)
- ・部活動を、地域主体の活動に移行したり、地域で調整して配置したりするなどの工夫を(4)
- ・地域の生徒、保護者、住民等や行政と意見交換をしながら再編整備をしてほしい(3)
- ・地域性を重視して、生徒が地元に残りたいと思う再編整備をしてほしい(2)
- ・近隣校と連携し、切磋琢磨したり合同で活動したりすることを検討することが大切(2)
- ・教育の質を維持していくための、根本的な再編整備が必要(2) 等